# 公開シンポジウム①
# U-18 女子フットサルを語ろう!

U-18 女子フットサルが少しずつ盛り上がりを見せています。いくつかの都道府県では協会や連盟主催の U-18 女子大会が行われ、「グリーンアリーナ神戸カップ」のように NPO が主催する全国規模の大会もあります。学校やクラブの交流試合や招待大会も増えてきました。

このような機運を背景として、本シンポジウムが企画されました。

12 年前の男子も似たような状況でした。都道府県レベルでの盛り上がりはあったものの、全国規模の公式戦はありません。そこで法人化前のサロン 2002 は 2013 年 3 月に「U-18 フットサルを語ろう!」というシンポジウムを開催し、U-18 フットサルの位置づけと各地の現状を把握し、課題と可能性を共有しました。これが一つのきっかけとなって、JFA 主催大会や連盟主催の選抜大会の開催につながりました。NPO 法人サロン 2002 でも毎年、「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」を主催しています。大きな飛躍には何かのきっかけが必要です。

盛り上がりを見せはじめているとはいえ、乗り越えなくてはならない障壁は多々あります。地域ごとの温度差もあります。まずは各地の U-18 女子フットサルの現状と課題を共有し、今後の方向性をさぐっていきたい。それがこのシンポジウムのねらいです。U-18 女子フットサルには大きな可能性があります。次につながるシンポジウムにしていきたいと思います。　（中塚義実）

公開シンポジウム2024-1報告（月例サロン通算334回）

# U-18女子フットサルを語ろう!

田中　悦博　福井丸岡 RUCK
中村　柾斗　武南高校女子フットサル部
小林美由紀　WE リーグ理事
中塚　義実※　NPO サロン 2002 理事長／筑波大学附属高校教諭
本多　克己※　NPO サロン 2002 副理事長／ NPO 神戸アスリートタウンクラブ理事長

（※コーディネーター兼）

**【主　催】** 特定非営利活動法人サロン 2002、特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブ
**【後　援】** 特定非営利活動法人兵庫県フットサル連盟
**【日　時】** 2024（令和 6）年 8 月 1 日（木）　18：00 ～ 20：00　（17：30 受付開始）
**【会　場】** グリーンアリーナ神戸多目的ホール（兵庫県神戸市須磨区緑台）＆オンライン（Zoom）
**【参加費】** 無料
**【参考資料】** スポーツ文化研究会サロン 2002 公開シンポジウム 2012（2013 年 3 月 30 日開催）
「U-18 フットサルを語ろう！」
https://www.salon2002.net/src/pdf/symposium/2012_sympo.pdf

## ＜公開シンポジウム 2024-1 参加者　計 47 名（敬称略）＞

**■ 会場参加者（計 34 名）**　※懇親会参加は 8 名

〈サロン 2002 ファミリー（2 名）〉
中塚義実（NPO サロン 2002 理事長／筑波大学附属高校／ TFA フットサル委員会ユース部会長）
本多克己（NPO サロン 2002 副理事長／ NPO 神戸アスリートタウンクラブ理事長／ HFF 理事）

〈ファミリー外の登壇者・運営スタッフ（32 名）〉
・登壇者（3 名）… 小林美由紀（WE リーグ理事）、田中悦博（福井丸岡 RUCK）、中村柾斗（武南高校女子フットサル部）
・運営スタッフ（3 名）… 堀川真那（㈱シックス）、日置捻夫・惣八典彦（デウソン神戸）
・後援団体（1 名）… 西田俊一（NPO 兵庫県フットサル連盟会長）
・一般参加（14 名）… 石原竜太、上門大介（鹿児島実業高校フットサル部）、岡崎空日南太（日刊スポーツ新聞西日本）ほか 2 名、小野英晃（神戸常盤女子高校フットサル部）、霧嶋兼三、久米智弘（福井丸岡 RUCK 広報）、硲田直文（神戸国際大学附属高校フットサル部）、鈴木義章（兵庫県サッカー協会技術委員会）、羽生田真一（日本女子体育大学附属二階堂高等学校フットサル部）、宮田亜里紗（阪神ユナイテッド）、森本朋高（明石サッカー協会／あかしユニバーサルフットボール連盟）、山田量
・小林愛心ほか福井丸岡 RUCK サテライト 11 名

**■ オンライン参加者（計 13 名）**

〈サロン 2002 ファミリー（4 名）〉
小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者／ NPO サロン 2002 監事）、茅野英一（かながわクラブ）、本郷由希（NPO サロン 2002 理事）、野村忠明（埼玉ソーシャルフットボール協会運営委員／会社員）

〈サロン 2002 ファミリー外（9 名）〉
海野伸明、木下瑛博（株式会社ヴォルフェ）、小林茜、柴山宣喜、末永剛（Fuerza 宗像）、寺中健造、土居陽治郎（国際武道大学・水泳部部長）、豊川季絵（一般社団法人日本トップリーグ連携機構／フウガドールすみだレディース）、門田健次（FC 町田ボニータ代表・監督）

## ＜ 登壇者プロフィール ＞

**中村 柾斗（武南高校女子フットサル部顧問）**

1991 年、東京都出身。早稲田大学基幹理工学部在学時より多摩平 Jr SC（現 GrantFC）にて少年サッカーの指導にあたる。同大学卒業後、武南高校に着任し、女子フットサル部の顧問を務めて今年で 10 年目となる。「フットサルを通して高校生活を充実させてほしい」をテーマに日々の指導にあたっている。また、これまで埼玉県女子フットサル選抜コーチや東京都 U18 女子フットサル選抜コーチ、埼玉県フットサル連盟理事、第 1 回東京都女子ユースフットサルリーグ委員長などを経験。さらに関東最大級の U18 女子フットサル大会 “武南招待 “の開催や、非公式の社会人女子フットサルリーグ “埼玉県フットサル女子チャレンジリーグ “の設立・運営など女子フットサルの普及に務めている。趣味は登山、コーヒー

**田中 悦博（福井丸岡 RUCK 監督）**

1965 年、福井県出身。1991 年、「家族みんなでサッカーを楽しみたい」と RUCK レディースを創設し、女子サッカーの普及と強化に努める。2002 年の日韓 W 杯の後、チームにキッズサッカーのカテゴリーを増設し、フットサルを取り入れた指導を行う。その初代メンバーが、2010 年、J ヴィレッジで行われた「第 6 回なでしこカップ女子 U-12 サッカー大会」で日本一なり、2011 年、「第 20 回バーモントカップ」に出場し、史上初めて女子だけのチームで全国大会で勝星をあげる。その後、サッカーからフットサルの舞台に活動の拠点を移し、「全日本女子 U-15 フットサル選手権」や「全日本女子フットサル選手権」で優勝する。

現在、チームは福井丸岡 RUCK に姿を変え、「日本女子フットサルリーグ」に参戦中であるが、福井県やホームタウンの坂井市、スポンサーと連携し、フットサルで国際交流を行う。これまでに、ポルトガル、スペイン、タイ、イタリアの国際大会に参加し、福井でもイタリア、ベトナム、韓国のチームを招待し、国際大会を開催し、福井県のスポーツによる活性化に尽力した。チーム創立 34 年目となる今年 6 月、ブラジルで行われた「フットサル女子クラブワールドカップ」で予選を突破しベスト 8 に入り、「世界一のフットサルチームになる」という夢に一歩近づく。

**小林 美由紀（WE リーグ理事）**

神奈川県出身。筑波大学で女子サッカーチームを創設後、アメリカに留学して、日本とアメリカの女子サッカーに対する認識の違いにショックを覚える。その後、自分でサッカーをやりたいばっかりに、関東大学女子サッカー連盟、つくば FC、オール茨城など、様々な女子サッカーチームや大会、組織を作る。選手たちに、女子サッカー王国アメリカを見せたいと始めた海外女子サッカーツアーは、30 年目を迎え、いまも継続。サッカーを通じたアメリカ大学留学をサポートするブリッジ主宰。ジェフユナイテッド市原・千葉レディースのコーチ、統括責任者を経て、2021 年創設時から、WE リーグ理事。女子サッカーで世界を変えられると信じている。

**中塚 義実（筑波大学附属高校教諭／ NPO 法人サロン 2002 理事長）**

大阪府出身。中・高・大・院と、異なるタイプの部活動でサッカーを満喫したのち 1987 年より現職。保健体育科教諭・蹴球部顧問として、還暦を過ぎて再雇用者となったいまも定点観測続行中。1995 年度より東京都サッカー協会フットサル委員（ユース部会長）。1996 年度に東京都内でユースサッカーリーグ（DUO リーグ）を創設。1997 年度より「サロン 2002」の活動開始。2014 年度に NPO 法人化。著書に『少年のためのサッカー入門』（長岡書店）、『日本のスポーツ界は暴力を克服できるか』（かもがわ書店）、『運動部活動の理論と実践』（大修館書店）など。日本部活動学会理事。日本ヤタガラス協会副会長。

**本多 克己（NPO 法人サロン 2002 副理事長／神戸アスリートタウンクラブ理事長）**

1965 年神戸生まれ。京都大学文学部卒。賀川浩と株式会社シックスを設立し、賀川サッカーライブラリなどのコンテンツ、ホンダカップなどのスポーツ大会をプロデュースしてきた。神戸アスリートタウンクラブ理事長、サロン 2002 副理事長、フットサル連盟理事、兵庫県サッカー協会理事

# 公開シンポジウム①
# U-18女子フットサルを語ろう!

## 〈シンポジウムのねらい〉

U-18 女子フットサルの現状と課題を共有し、「次のアクション」につなげる。
「次のアクション」とは、JFA 主催の U-18 女子フットサル全国大会の開催！
それは、「いま」の U-18 女子プレーヤーの目標となり、
「これから」の女子フットサル＆サッカーの、プレーヤー、ファミリーの拡大につながり、
さらに、「女性が（誰もが）活躍できる社会」の実現につながるものである！

## オープニング

**中塚：**皆さんこんばんは。予定の 6 時になりました。8 時までこの会場で、U-18 女子フットサルについて熱く語り合いたいと思います。オンラインの方にも会場のようすがみえるようにしていますが、ご覧いただけているでしょうか。通信状況の関係で、オンライン参加者の発言がうまく取り上げられないかもしれませんが、ご意見やご質問はチャット欄を使っていただければと思います。

申し遅れました。私はこのシンポジウムを主催する特定非営利活動法人サロン 2002 理事長の中塚義実と申します。東京の筑波大学附属高校で保健体育の教師、サッカー部の顧問を続けています。サッカー部と言いましたが、正確には蹴球部で、11 人制のサッカーに取り組む男子サッカー部に加え、男子フットサル部と、女子蹴球部の名でフットサルに取り組む女子の部門があります。今年で創部 100 年となる伝統ある蹴球部の顧問です。東京都サッカー協会フットサル委員を、委員会創設の 1995 年から長らく続けています。前半の進行を担当します。

後半の進行を担当するのは本多さんです。

**本多：**サロン 2002 副理事長で、グリーンアリーナ神戸大会を主催する神戸アスリートタウンクラブ理事長の本多克己です。兵庫県サッカー協会フットサル委員も務めます。後半の進行を担当します。

**中塚：**登壇者を紹介します。本日行われた U-18 女子大会で優勝されました、福井丸岡 RUCK の田中さんです。

**田中：**皆さんこんにちは。よろしくお願いします。

**中塚：**埼玉の武南高校女子フットサル部顧問の中村さんです。

**中村：**今日は一日よろしくお願いします。

**中塚：**WE リーグ理事の小林さんは今朝、羽田空港に到着したところです。パリ五輪の日本 vs ブラジル戦を現地で応援し、このシンポジウムに間に合うように戻って来られました。

**小林：**よろしくお願いします。

**中塚：**では資料に沿って、今日の流れを確認しておきます。

「シンポジウムのねらい」は資料のとおりです。「次のアクション」とは、JFA 主催の U-18 女子フットサル全国大会の開催です。「いまの」女子プレーヤーの目標とするのはもちろんですが、「これから」の女子フットサル＆サッカーの、プレーヤー、ファミリーの拡大につながるものであり、もっと言うなら「女性が（誰もが）活躍できる社会」の実現につながるものであると認識しています。

大きな夢へ向けての第一歩ということです。

大まかな進め方です。まずは各演者からプレゼンしていただき、演者間で意見交換します。後半は参加されている皆さんからご意見やご質問をいただく時間です。

## 〈進　行〉

| | |
|---|---|
| 18：00～　18：10 | 1. オープニング<br>シンポジウムの概要<br>U-18 女子フットサルのあゆみ |
| 18：10～　19：10 | 2. プレゼンテーション<br>**※ 10～15 分のプレゼンと演者間の意見交換。進行役は中塚。** |
| 18：10～　18：30 | プレゼン①中村柾人氏 |
| 18：30～　18：50 | プレゼン②田中悦博氏 |
| 18：50～　19：10 | プレゼン③小林美由紀氏 |
| 19：10～　19：45 | 3. 会場全体で意見交換<br>**※会場全体で質疑応答・意見交換。進行役は本多** |
| 19：45～　20：00 | 4. クロージング |

## シンポジウムの概要

**中塚：**中身に入る前に、U-18 女子フットサルの現状について共通理解を持っておきたいと思います。

FIFA が「フットサル」の統一ルールを世界に示したのは 1994 年のことで、国内でフットサルの公式大会が始まったのが 1995 年度です。約 30 年前のことです。

この間の U-18 女子フットサルのあゆみをざっと整理しました。(p.8～9 参照) いくつかの地域で先駆的な取り組みがあります。神戸はその一つです。今日から始まった「グリーンアリーナ神戸カップ」のあゆみを掲載しました。女子の部ができたのはここ数年ですが、今日は全国から 10 チームが集まりました。

東京では東京都サッカー協会（TFA）主催事業で「女子ユースフェスティバル」をやっています。U-15 と U-18 がともに競い合います。十文字中学という強いチームがあり、U-18 のお姉さんたちを打ち負かして何度も優勝しています。資料で星印をつけた数年間は、渋谷 109、東急グループが冠スポンサーについてくれて、とても華やかな大会になりました。しかしコロナでスポンサーは撤退し、いまは自分たちで運営する、交流志向のフェスティバルとして行われています。

もっとローカルなところで言うと、私が顧問を務める筑波大学附属高校女子蹴球部も 2002 年から TFA 主催の公式大会に出場しています。都内完結型の「東京都女子フットサル大会」です。相手は大人なので全然勝てません。2004 年の初勝利の相手は「ハロープロジェクト」の芸能人チームでした。

出場できる大会が大人のカテゴリーしかなく、負け続けていた女子高生たちはみな同じ境遇でした。「高校生の大会があるといいのにね」と言っていた彼女たちは、2006 年から近くの女子高生に声をかけ「女子高生フットサル大会」を自分たちで始めます。いまも形を変えて続けています。あとで中村さんから話があると思いますが、武南高校主催の武南招待大会など、U-18 女子フットサルの広がりは見えるのですが、いずれも公式大会ではありません。このあたりで全国各地のムーブメントを一つにし、JFA 主催の公式大会につなげようというのが、このシンポジウムのねらいでもあります。

10 ページは U-18 男子の話です。2013 年 3 月に行われたサロン 2002 のシンポジウムがきっかけとなり、JFA 主催の全国大会ができています。

これらを踏まえて、U-18 女子フットサルについて語り合いたいと思います。

## U-18 女子フットサルのあゆみ

### ■ フットサルフェスタ (旧ホンダカップ)

関東、東海、関西で予選を開催。12 月にグリーンアリーナ神戸で全国大会を開催。

| | 優勝 | | 準優勝 | | 3位 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023 | 福井丸岡RUCK U-18 | 東海 | 二階堂高校フットサル部 | 関東 | 大阪成蹊女子高等学校 | 関西 |
| 2022 | 福井丸岡RUCK U-18 | 関西 | FukuroiFCレディースU-18 | 東海 | 二階堂高校フットサル部 | 関東 |
| 2021 | ヴィスポさやま | 関西 | TOHO Ladies Football Club | 東海 | 武南高校 | 関東 |
| 2020 | 開催なし | | | | | |
| 2019 | 開催なし | | | | | |
| 2018 | 福井丸岡ＲＵＣＫ | 中日本 | 二階堂高校フットサル部 | 東日本 | 神戸常盤女子高校 | 西日本 |
| 2017 | 福井丸岡RUCK | 関東 | ヴィスポさやま | 関西 | Fuerza Futsal Club U-18 | 九州 |
| 2016 | FCヴィトーリア | 関西 | REGISTA | 関東 | ＦＣシューティングスター | 九州 |
| 2015 | 丸岡RUCKレディース | 関西 | Shi-maFC | 九州 | 二階堂高校フットサル部 | 関東 |

### ■ グリーンアリーナ神戸カップ U-18 フットサルフェスティバル

毎年 8 月にグリーンアリーナ神戸で開催するフェスティバル。
2023 年結果優勝は北海道選抜

| | Aグループ | 1 | 2 | 3 | 4 | 勝点 | 得点 | 失点 | 得失点 | 順位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 神戸常盤女子高校フットサル部 | | 0 × 3 | 3 △ 3 | 0 × 8 | 1 | 3 | 14 | -11 | 3 |
| 2 | 武南高校女子フットサル部 | 3 ○ 0 | | 5 ○ 3 | 0 × 2 | 6 | 8 | 5 | 3 | 2 |
| 3 | 鹿児島実業高校フットサル部 | 3 △ 3 | 3 × 5 | | 1 × 11 | 1 | 7 | 19 | -12 | 4 |
| 4 | 福井丸岡RUCKサテライト | 8 ○ 0 | 2 ○ 0 | 11 ○ 1 | | 9 | 21 | 1 | 20 | 1 |

| | Bグループ | 1 | 2 | 3 | 4 | 勝点 | 得点 | 失点 | 得失点 | 順位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 阪神ユナイテッド | | 2 △ 2 | 1 × 2 | 2 ○ 1 | 4 | 5 | 5 | -5 | 3 |
| 2 | 北海道女子U-18 | 2 △ 2 | | 3 ○ 0 | 5 ○ 1 | 7 | 10 | 3 | -3 | 1 |
| 3 | 静岡SSU FukuroiFCレディース | 2 ○ 1 | 0 × 3 | | 1 ○ 0 | 6 | 3 | 4 | -4 | 2 |
| 4 | 二階堂高校フットサル部 | 1 × 2 | 1 × 5 | 0 × 1 | | 0 | 2 | 8 | -8 | 4 |

### ■ KOBE FESTA U-18 女子フットサル選抜トーナメント

2024 年 3 月までは「FUTSAL KOBE FESTA ユースフットサル選抜トーナメント」として開催。エキシビションとして兵庫県女子 U-18 リーグ選抜と東京都女子 U-18 リーグ選抜の試合を予定。
2025 年 3 月からは女子の選抜大会として、北海道、東京、神奈川、兵庫のリーグ選抜と、福井丸岡 RUCK、名古屋オーシャンズなどによる大会として計画している。

## ＜参考：東京都女子ユースフットサルフェスティバル（TFA主催）＞

| 年度 | 回数 | チーム数 | 優勝 | 決勝ｽｺｱ | 準優勝 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2012 | プレ大会 | 8 | 十文字中学校ﾀｰｺｲｽﾞﾌﾞﾙｰ | 5-0 | 文京AFC |
| 2013 | 第１回 | 12 | SOCIOS FC U-18 | 4-3 | SOCIOS FC U-15 |
| 2014 | 第２回 | 9 | 十文字中学校 | 13-0 | 北区さくらガールズ |
| 2015 | 第３回 | 12 | ASUKA | 11-5 | 十文字高校 |
| 2016 | 第４回 | 10 | 十文字中学校 | 9-0 | FC町田ボニータ |
| 2017 | ★第５回 | 12 | 十文字中学校 | 9-0 | 錦城高等学校K |
| 2018 | ★第６回 | 12 | FC 駒沢女子 | 3-1 | FC ARMADOR |
| 2019 | ★第７回 | 12 | 十文字中学校 | 11-0 | 町田ボニータchica |
| 2020 | ★第８回 | 12 | 中　止 | | |
| 2021 | 第９回 | 11 | 交流大会として実施（10/17駒沢屋内） | | |
| 2022 | 第１０回 | 9 | 交流大会として実施（11/13すみだﾌｯﾄｻﾙｱﾘｰﾅ） | | |
| 2023 | 第１１回 | 7 | 交流大会として実施（3/3武蔵野の森）【変則総当たり戦】 | | |
| 2024 | 第１２回 | | 交流大会として実施（3/1~2武蔵野の森） | | |
| | ★はSHIBUYA109ガールズフットサルカップ | | | | |

補足：2001 年度より開かれる東京都フットサルチャレンジU-18 に、2022 年度より女子の部を設置。
2023 年度からは女子の部を男子とは別日に行う（2024 年 8 月 25 日に武蔵野の森で 13 チームで予定）

大人相手に全く歯が立たない。同じ境遇の女子高生同士、「高校生の大会があるといいのにね」と言っていたが…

第２回「東京都女子フットサル大会」に初出場
※レディース（大人）の大会しかなかった）

## 参考：筑波大学附属高校女子蹴球部は…

グループ C

| 順位 | | チーム名 | a | b | c | d | e | 勝点 | 得点 | 失点 | 得失点差 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | a | PSTC LONDRINA VALENTE | | ● 1 - 2 | ○ 2 - 0 | ○ 8 - 0 | ● 0 - 2 | 6 | 11 | 4 | 7 |
| 2 | b | Forest Annex | ○ 2 - 1 | | ○ 3 - 0 | ○ 2 - 1 | ● 0 - 1 | 9 | 7 | 3 | 4 |
| 4 | c | 城北クラブレディース | ● 0 - 2 | ● 0 - 3 | | ○ 3 - 0 | ● 1 - 4 | 3 | 4 | 9 | −5 |
| 5 | d | 筑波大附属高等学校 | ● 0 - 8 | ● 1 - 2 | ● 0 - 3 | | ● 0 - 4 | 0 | 1 | 17 | −16 |
| 1 | e | 横田フットサルスクール feat GALO | ○ 2 - 0 | ○ 1 - 0 | ○ 4 - 1 | ○ 4 - 0 | | 12 | 11 | 1 | 10 |

第2回
2002年
2月10日
小金井東中
（女子部
初公式戦）

グループ B

| 順位 | | チーム名 | 1 | 2 | 3 | 4 | 勝点 | 得点 | 失点 | 得失点差 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 小金井サッカークラブ | | ○ 6 - 0 | ○ 3 - 0 | ○ 2 - 0 | 9 | 11 | 0 | 11 |
| 3 | 2 | 城北クラブレディース | ● 0 - 6 | | ○ 5 - 0 | ● 0 - 6 | 3 | 5 | 12 | −7 |
| 4 | 3 | 筑波大附属高等学校 サッカー部女子部門 | ● 0 - 3 | ● 0 - 5 | | ● 0 - 4 | 0 | 0 | 12 | −12 |
| 2 | 4 | Fuchu Athletic Ladies | ● 0 - 2 | ○ 6 - 0 | ○ 4 - 0 | | 6 | 10 | 2 | 8 |

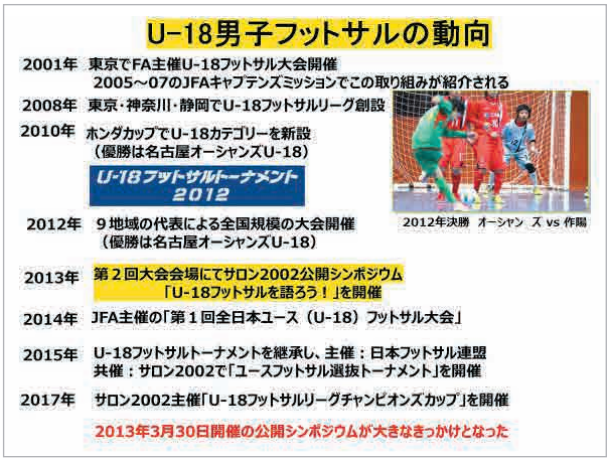
第3回
2003年
2月15日
府中市総合
体育館
※大人相手
に大苦戦

グループ H

| 順位 | | チーム名 | H1 | H2 | H3 | 勝点 | 得点 | 失点 | 得失点差 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H1 | 小金井ＳＣ | | ○ 9 - 0 | ○ 5 - 1 | 6 | 14 | 1 | 13 |
| 3 | H2 | ガッタスブリリャンチス エイチピー | ● 0 - 9 | | ● 0 - 10 | 0 | 0 | 19 | −19 |
| 2 | H3 | 筑波大附属高校 サッカークラブ | ● 1 - 5 | ○ 10 - 0 | | 3 | 11 | 5 | 6 |

第4回
2004年3月27日
府中市総合体育館
※女子部初勝利
相手は「ハロプロ」
＝芸能人チーム

★筑波大学附属高校女子部は他校に呼びかけ、自分たちで大会を作った！
**2008～「女子高生フットサル大会」　⇒　2019～「高校生女子フットサルチャンピオンシップ」**



## プレゼンテーション①
## 中村柾人（武南高校女子フットサル部顧問）

私からは「高校現場から見るU-18女子フットサルの現状」ということで、本校女子フットサル部の取り組みと関東での動きを紹介し、最後に、U-18女子フットサルに関わって思うところをお話しさせていただきます。

### ■ 武南高校女子フットサル部のあゆみ

部員は１～３年生で40人います。フットサルに興味を持ってくれる女子高校生がこれだけいます。

本校女子フットサル部の略歴です。2015年度に同好会から部に昇格しました。僕はこの年に武南高校に着任し、ちょうど10年目です。

最初は民間フットサル施設がやっている大会しかなかったので、生徒たちの試合の場を確保するため、翌年度から本校主催の招待大会を開きました。関東でフットサルをやりたい女子が、少しでも大会の経験ができるようにと始めたものです。2017年度は神奈川県主催の大会やグリーンアリーナ神戸カップにも出場させていただきました。

2018年度には埼玉県女子フットサルリーグに参加することになりました。本校初の社会人カテゴリーの大会参加であり、学校内外で手続きをいろいろ踏んで参加できるようになりました。

| | |
|---|---|
| 2015年度 | 武南高校女子フットサル部、同好会から部に昇格 |
| 2016年度 | 第1回武南招待を開催（以後毎年夏と冬に大会を開催） |
| 2017年度 | All Japan Women's High school futsal tournament初出場 |
| | グリーンアリーナ神戸カップ全国大会初出場 |
| 2018年度 | 埼玉県女子フットサルリーグ参入（1種） |
| | 第6回東京都女子ユースフットサルフェスティバルに参加 |
| | 埼玉県女子選抜に2名選出され、トリムカップ全国大会3位 |
| 2020年度 | 埼玉県女子フットサルリーグに2チームエントリー |
| 2021年度 | 武南OGによる1種チーム“ルルスス“を設立し、県リーグ参入 |
| 2022年度 | “ルルスス“が埼玉県女子フットサルリーグ優勝 |
| 2023年度 | 加盟を埼玉県から東京都に変更 |
| | 東京都女子ユースフットサルリーグ参入→準優勝 |
| | 東京都U18女子選抜に3名選出され、神戸遠征に参加 |
| 2024年度 | 全日本女子フットサル選手権東京都予選初出場 |
| | 武南招待：初の20チーム参加 |

埼玉県では社会人と試合ができるようになりましたが、高校生同士の試合ができないので、東京都サッ

カー協会（TFA）フットサル委員の中塚さんにお電話させてもらい、東京都の大会に特例で混ぜてもらえるようになったのがこの年からです。その後、埼玉県リーグには 2 チーム参加したり、卒業生のチームが埼玉県リーグに加盟することになったのですが、2023 年度に東京都女子ユースフットサルリーグができるということで、埼玉県と東京都にお願いして、東京都フットサル連盟に加盟させてもらい、昨年度より東京都のリーグで活動させてもらっています。

## ■ 武南招待大会

本校主催の武南招待大会は夏と冬にそれぞれ 2 回ずつ、計 4 回開いています。城西大学のご協力もいただいて、左上の写真は城西大学の柴沼先生に講義をしてもらっているところです。競技会だけでなく、いろんな付加価値をつけています。右下の写真はキッチンカーを入れてお祭りっぽくしているところです。大会を盛り上げてくれた選手を MIP として表彰しています。規模は年々拡大し、いま 20 チームが参加する、関東で一番大きな招待大会になっています。

## ■ 関東地域における取り組み

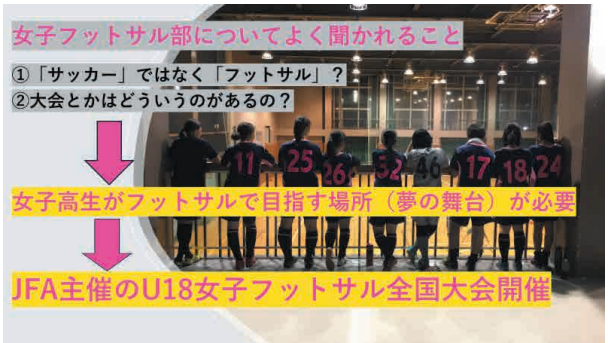
次に関東各地の取り組みです。

東京都は選手権、ユースのリーグ戦、フェスティバルと充実しています。ユースリーグは今年も 9 月に開催します。選手権は 2 月ごろにあります。

隣の神奈川県は、東京都よりも先にリーグ、選手権、フェスティバルが整備されました。神奈川オープンは全国からチームを募集して大会を開いています。東京都と神奈川県は精力的にやってくれています。

東京と神奈川以外でも、本多さんがやってくださっている大会や、筑波大学附属高校主催の女子高生大会、あと学生リーグが主催する大会などもあります。関東ではいろんなところでいろんな団体がやっていて、試合の機会を増やそうという動きがあると言えるでしょう。

## ■ U-18 女子フットサルの現状と今後




女子フットサルの活動をしていてよく聞かれることがあります。一つは、「サッカーではなくてフットサルなの？」ということで、まだまだフットサルが浸透していないことを感じます。うちも人数が多いので「サッカーやらないの？」とよく言われます。「フットサルで頑張りたいんです」と言っています。

もう一つは、「大会はどういうのがあるの？」ということです。野球をやっている人には甲子園があります。サッカーにはインターハイや選手権といった華やかな舞台があります。しかし「フットサルって何があるの？」となったとき、はっきりと言える華やかな舞台がありません。

いまプレーしている人はフットサルが好きでやっています。女子高生が目指す場所、華やかな夢の舞台が必要だと感じています。夢の舞台として、JFA 主催の U-18 全国大会が開催されることを願っています。いまはまだ「フットサル部って活動どうしているの？」と思われている状態です。夢の舞台ができ、活動が浸透してくれば、中学生が「高校でもフットサルを頑張ろう」と思うようになってくれるでしょう。

JFA 主催の U-18 女子フットサル全国大会の開催を通して僕が願うことは二つです。フットサルを、より注目され、より応援されるスポーツにしていきたい。いろんな人に応援されることで選手たちが輝きます。そして、いまフットサルが好きでやっている選手たちが、夢や希望を持ってプレーできるようになってほしいということです。

高校の部活動の立場ですが自分にできることはやっていきたいと思います。

## ■ 質疑応答

**中塚：**では登壇者同士で少し質疑応答の時間を取りたいと思います。まずは私から。武南高校は高校選手権の優勝など、男子サッカーの土壌がある学校だと思っていましたが、女子のサッカー部はあるのでしょうか。学校の施設利用の面で、他の部活動とどうやって調整されているのでしょう。

**中村：**女子のサッカー部はありません。男子が 200 人ぐらいいて、グラウンドもそんなに広くはありません。サッカー部は学校外のグラウンドでやっています。週 1 回だけフットサル部とアメフト部が、校内の人工芝のグラウンドを使っています。残りは市の持っている体育館を借りています。体育館は既存のバレー、バスケ、バドミントンできつきつです。

**中塚：**限られた施設の中、2015 年に同好会から部に昇格します。何かきっかけがあったのでしょうか？

**中村：**聞いたことがありません。就職した段階で「部になったからよろしくね」と始まりました。

**中塚：**もう一つ。先ほどの話にもありましたが、2018 年度に、東京都の大会に出られないかと中村さんから私のところに電話がありました。いまでも覚えています。同じ高校生同士の試合をやりたいのだということでした。事情はわかるけど、TFA は基本的には東京都の人を対象としています。施設も限られています。「埼玉で仲間を増やして埼玉でやってください」と最初にお伝えしたと思います。最終的には、東京のチームも武南招待でお世話になっているし、お互いさまなので受け入れることになりましたが、その後、埼玉県内の U-18 女子フットサルはどうなったでしょう。

**中村：**埼玉県フットサル女子チャレンジリーグを設立させていただきました。社会人が対象で、連盟を通さず、フットサルを楽しむリーグです。高校の OG チームも参加するようになり、フットサルに興味を持つ学校が増えてきました。隣駅の高校からもつい先週、連絡をいただきました。サッカーやっているところにも「よかったらフットサルやりませんか。まずは本校主催のフットサル大会に出ませんか」とお声掛けしています。少しずつそういったところが増えてきています。

**田中：**いま巷では中学部活動の地域移行がはじまっています。将来的には U-18 と U-15 が連携していくのが良いと思いますが、埼玉で高校の地域移行はどの程度進んでいるでしょうか。

**中村：**中学生も一緒にやるのはいいなと思っていますが、いまはそこまで手が回りません。

**田中：**筑波大附はどうですか。女子高生大会は U-18 年代だけでしょうか。

**中塚：**うちでやっているのは高校生が対象ですね。TFA 主催の女子ユースフェスティバルは U-15 も一緒にやっています。

**中村：**武南招待は中学生の参加も可能です。学校部活動の地域移行については、僕の周りでは実感がないというのが本音です。

**小林：**武南高校に「フットサルをやりたい」と言って入ってくる子はいますか。

**中村：**高校から新しいスポーツを始めたいという子がフットサルに入ってくることが多いです。いろんな部活を見たうえで、フットサル楽しそうだし頑張ってみようかなという感じです。だから初心者から始めることが多いですね。

**中塚：**学校の部活動としての U-18 女子フットサルをご紹介いただきました。すごく意欲的な取り組みです。私も高校の教員として、いつも感謝しています。

## プレゼンテーション②
## 田中悦博（福井丸岡 RUCK）

自分は地域クラブの U-18 女子フットサルについて話をさせていただきます。

うちのチームは今年で 34 年目です。34 年間で培ったことを皆さんに提案したいのですが、価値観の多様化でいろんな考え方があります。こうでなければならないというものではありません。

人生の幸せは「仲間と一緒に夢を追いかけている時にみつかる」と考えています。「幸せ」についても後で話したいと思います。

### ■ 丸岡 RUCK と U-18 女子フットサルの変遷

丸岡RUCKのトップ選手(第1世代・北川)
<目標>
小学生…キヤノンカップ(5人制サッカー大会) アメリカ遠征
Jヴィレッジなでしこカップ(8人制サッカー大会)
全国少年少女草サッカー大会(8人制サッカー大会)
※バーモントカップ(全日本U-12フットサル大会)
中学生…全日本女子U-15サッカー大会　7月
全日本女子U-15フットサル大会　1月
高校生…全日本女子フットサル選手権大会　地域予選
フットサル地域女子チャンピオンズリーグ　地域リーグ
トリムカップ全国選抜大会　地域予選

丸岡 RUCK の第 1 世代、いま 27 歳になっている世代が初めて小学生のころにフットサルに取り組みました。このころの小学生は「キャノンカップ」があって、優秀選手になるとアメリカに行けたんです。「J ヴィレッジなでしこカップ」は、自分が女子サッカーに関わる中で、小学生の大会がないことを大仁さんに言ってできたものです。第 1 回目の大会にはなでしこジャパンの選手たちが来てくれて、「サッカーやっていると世界につながるよ」という話をしてもらいました。

小学生時代

・全国少年少女草サッカー大会

・Jヴィレッジなでしこカップ

「全国少年少女草サッカー大会」は、男子の部と女子の部がありました。海外からもチームが来て、お盆に清水でという大会です。

「バーモントカップ」もはじまりました。女子だけで出場して 1 勝し、女子もやればできるんだということを示すことができました。

中学生になるとちゃんと住み分けされていて、夏はサッカー、冬はフットサル。初期年代の選手は両方楽しめました。高校生になったら、小学校のころからガンガンフットサルやっていたので結果も出てきます。目標は全日本選手権大会。大人とやって優勝もしました。地域チャンピオンズリーグもはじまり、トリムカップもはじまります。年代ごとに目標となる大会がありました。

フットサルの大会にはご褒美がいっぱい
エグザイルカップ
コンサートに招待　記念撮影

キヤノンカップ
優秀選手はアメリカ遠征

北川という選手は中学 2 年生の時に日本代表になって、海外にも行くことができました。

フットサルをなぜ始めたかというと、フットサルの大会にはご褒美がたくさんあるんですね。「エグザイ

ルカップ」ではコンサートにも行かせてもらい、エグザイルと写真を撮らせてもらいました。

丸岡RUCKのトップ選手(第2世代・池内)
<目標>
小学生…びわこなでしこカップ(8人制サッカー大会)
全国少年少女草サッカー大会(8人制サッカー大会)
※バーモントカップ(全日本U-12フットサル大会)

中学生…全日本女子U-15サッカー大会　7月
全日本女子U-15フットサル大会　1月　日本U-15選抜

高校生…ユースオリンピック　ブエノスアイリス2018
全日本女子フットサル選手権大会
フットサル地域女子チャンピオンズリーグ　地域リーグ
トリムカップ全国選抜大会　地域予選・日本選抜

第 2 世代はいま 23 歳ぐらいの年代です。この子たちのときは J ヴィレッジが被災してしまい、小学生の女子大会がなくなってしまいました。代わりに滋賀県で「びわこなでしこカップ」が開かれましたが、いろいろあって全国大会としては認めてもらえませんでした。草サッカー大会もバーモントもあったのですが、男子のレベルが上がってきて女子では歯が立たなくなっていました。

ユースオリンピック2018ブエノスアイリス大会

日本代表選出
・アジア大会
・アジアインドアゲームズ
・ワールドトーナメント

中学生の時もサッカー・フットサルともに大会があったのですが、この子たちが高校生になる 2018 年にユースオリンピックが計画されていたんです。中 3 のときにはユースオリンピックを目指した強化が始まり、1 月の U-15 フットサル大会のあとに U-15 選抜を作ってトリムカップに参加することができました。

男子にはかなわない、大人の大会でも結果が出せない、けど U-19 の世界大会がある。ユースオリンピックという目標を JFA が見つけてくれたので、この子たちは、世界を見据えて取り組むことができました。これがアルゼンチンで準優勝した大会の写真です。北川たちは高校生のときから日本代表を目指して活動していました。

次の第 3 世代はいま 20 歳ぐらいの年代ですが、小学校のときはサッカーもフットサルもできました。しかし中学に入ると、サッカーは夏が暑いので冬にしろということになり、サッカーとフットサルのシーズンが重なってきます。自分はサッカーもフットサルもさせたかったのですが、フットサルでがんばっているのになぜ両方やるのかということになり、サッカーをあきらめました。全体が、サッカーかフットサルのどちらかにしろというようになってきたと感じています。

高校のレベル、一般のレベルも上がってきたので、どこへ行ってもなかなか勝てない。日本女子フットサルリーグに加盟しているとトリムカップに出られなくなったので、だんだん活動の場が減ってきました。

丸岡RUCKのトップ選手(第3世代・加藤)
<目標>
小学生…全国少年少女草サッカー大会(8人制サッカー大会)
※バーモントカップ(全日本U-12フットサル大会)

中学生…全日本女子U-15サッカー大会　途中から12月開催
全日本女子U-15フットサル大会　1月

高校生…フットサル地域女子チャンピオンズリーグ　地域リーグ
※日本女子フットサルリーグに加盟しているチームはトリムカップに出場できなくなった

丸岡RUCKのトップ選手(第4世代・横川)
<目標>
小学生…コロナで開催なし

中学生…全日本女子U-15フットサル大会　1月
日本女子フットサルリーグ

高校生…日本女子フットサルリーグ
フットサル地域女子チャンピオンズリーグ　地域リーグ
※日本女子フットサルリーグに加盟しているチームは3名まで出場可能(今年度も日程が重なる)

そして第 4 世代、いまそこにいる高校 2 年生たちです。この子らは小学生のとき、コロナの影響でほとんど大会は開催されませんでした。中学の全日本大会はありましたが、日本リーグはレベル差があってなかなか出場できません。高校生になって日本リーグに 3 ～ 4 人出ていますが、大人との試合なのでなかなか活動の場を見つけることができません。目標がない世代がいまの高校生だなということです。

JFA だけみれば、女子フットサルのアンダーカテゴリーの環境は悪化していると感じます。

昔は夢があって、目標に向かって仲間とともに汗を流したのですが、いまは目標がなくなっているので、全日本 U-18 女子大会を開催してほしい。そのための署名活動もしているところです。

## みんなが目標にできる大会を

夢に向かって生きることこそ幸せだと思います。かなうかどうかはともかく、仲間と一緒に夢を叶える努

力をすることで、幸せは何倍にも膨れ上がります。それがスポーツの良さでもあります。

競技レベルが上がったいま、高校生年代が活躍できる環境をつくることが急務であると考えます。

先ほど中村先生が言ったたように、みんなが目標にできる大会、全日本女子 U-18 フットサル選手権大会が必要です。これだと地域ごとに活動ができます。これに「勝とう」という前に、「出よう」というのがよいモチベーションになります。

これに加えて、民間の女子 U-18 フットサル大会。これは、時間があって手を挙げれば出られる大会です。グリーンアリーナ神戸カップのような大会が各地で行われ、交流の場となっています。すばらしいことです。

## ■ 海外のようすー女子フットサルはメジャー

もう一つ言いたいのは、海外の大会です。丸岡 RUCK がフットサルに転向したのは、先ほどのご褒美の話がありましたが、国際交流をしたかったからでもあります。

日本にいるとフットサルはマイナーな競技ですが、ブラジルでもヨーロッパでもメジャーです。その場所で国際交流をして仲間づくりをしたいという提案です。

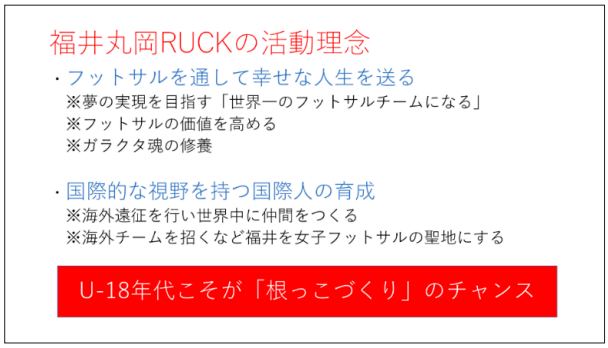
国際的な動きについて言いますと、2025 年にフィリピンで第 1 回フットサル女子ワールドカップが開かれます。日本は 11 月にタイで行われるアジアインドアゲームズに代表チームを派遣し、来年 5 月に行われるアジア大会でワールドカップの出場枠を競います。ぜひ出場権を獲得してフットサルの価値を高めてほしいです。

では世界はいま何をやっているかというと、来年のワールドカップだけでなく、女子の U-19 国際大会やクラブレベルの国際大会をやっています。日本の一歩も二歩も前に行っています。ブラジルでは来年、女子 U-19 のクラブチームの大会があります。日本チームも来てくださいと言われています。

なぜ世界なのか。もちろんトップチームの強化のため。そして男女平等社会の実現のため。男子があったら女子も。そして SDGs、継続させる。チームも、地域も。そしてもう一つ、女子の大会をやればスポンサーも獲得できるんです。アンダー大会や女子大会は社会貢献であり、企業のイメージアップになります。先ほども「109 東急」の話がありましたが、自分たちの大会を開こうというと、女子だから、アンダーだからサポートするという企業はあると思います。

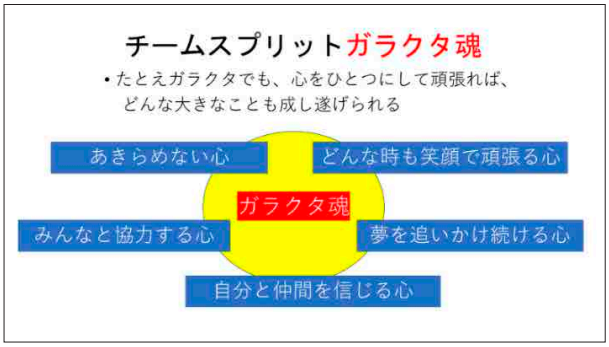
日本では未開発の分野ではありますが、どんどんやっていけばいいと思います。

## ■ 丸岡 RUCK が目指すところ

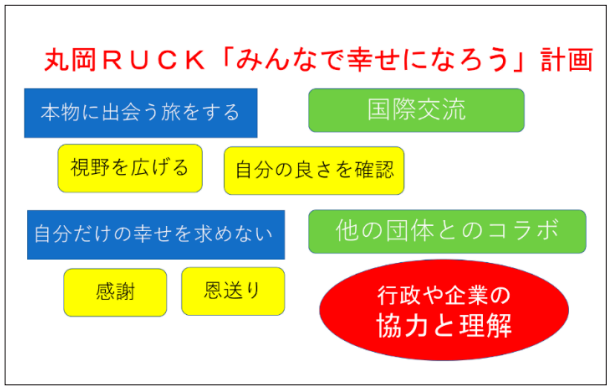



丸岡 RUCK は「優勝しよう」ということよりも、「フットサルを通して幸せな人生を送ろう」ということを最も重視しています。そして、フットサルは世界でやっていますから、「国際的な視野を持つ国際人の育成」を掲げています。世界中の仲間づくりです。海外遠征を行うだけでなく、福井に、ブラジルや韓国から来てもらう。福井を国際的なフットサルの聖地にしたいと考えています。

U-18 年代が勝利だけを目指すのではなく、人間性の育成の場だと考えています。高校生年代こそ「根っこづくり」のチャンスです。




RUCK というのは「ガラクタ」という意味ですが、小学生のころからチームスピリットとしての「ガラクタ魂」は言い続けています。たとえガラクタでも、心を一つにして頑張れば、どんな大きなことも成し遂げられるという精神です。




「みんなで幸せになろう」計画もこのように表しています。「本物に出会う旅」。自分もブラジルに行って初めてわかったところです。うちがフットサルをはじめたときに最初に来たチームはアルゴイリスです。最初に本物に出会うと、目指すところがわかります。

「自分だけの幸せを求めない」。自分が試合に出てシュートを決める。そういうことだけじゃない。仲間と喜び合う。感謝したり恩返ししたり。それが行政や企業との協力と理解につながります。

## ■ 国際交流のようす

左は去年（2023 年）バルセロナに行って U-19 の大会に出たときの写真です。ヨーロッパの学校は 9 月はじまりで、世界大会もそうですが U-19 大会になります。

右も去年、福井にベトナムのチームが来たときの写真です。こうやって福井にも海外のチームに来てもらっています。

海外遠征は 2015 年 6 月のポルトガル遠征からでした。2017 年 1 月にはスペインへ。試合をするだけでなく、その土地の史跡を訪れます。フットサルやっていてよかったなあと思えるときです。

この写真は今年（2024 年）1 月に訪問したローマでのようすです。この時は、LAZIO のブラジルやフィンランドのプロ選手と合同チームを作り、試合に出場しました。言葉の壁はありますが、こういう交流が重要です。

そして今年の 6 月にブラジルへ行ってきました。

ではうちの選手でブラジルへ行って学んだことをしゃべりたい子がいますので、話してもらおうと思います。

**丸岡 RUCK（8 番）：**福井丸岡ラックの平田です。高校 2 年生です。ブラジルに行って学んだことは、ブラジルの選手はスピードとパワーがあることと、一人ひとりがゴールに向かう姿勢があることで、いま自分たちもそのことを意識しながらやっています。それと、ブラジルのリーグは、女子も男子と同様に、選手も観客も一つになって盛り上がっていました。

刺激を与えると選手たちも変わってきます。今日の試合を見ていても、ゴールをねらう意識が強くなったなと感じます。今日決勝戦で 3 点取った子がいます。ブラジルには行っていない子ですが、仲間の話が刺激になって、全員がシュートを打つようになって意識が変わったと思います。

### 今、私たちがするべきこと

・前に進む
　全日本女子U-18フットサル選手権大会新設を訴え続ける
　ＪＦＡ頼りにならずに自分たちで環境づくりをする
　日本だけではなく世界に目を向ける

・フットサルの価値を高める

・日本代表選手を育てるのも大事だが、生涯にわたってフットサルを愛してくれる選手を育てることがもっと大事。日本代表にならないと世界に挑戦できない世界ではいけない。

最後に、いま私たちがすべきことです。「前に進む」。全日本女子 U-18 フットサル選手権大会新設を訴え続けることが必要です。またそれを、JFA 頼りにならずに自分たちで切り開いていく。日本だけでなく、世界に目を向けることが大切だと思います。

「フットサルの価値を高める」ために、いま RUCK の選手たちは情報発信活動をやっています。待っているだけではダメです。自分たちで、自分たちがやっていることの価値を高めていくことが必要です。やれるのは指導者ではなく選手たちだと思っています。

最後に、自分は日本代表選手を育てることは大事ですが、「生涯にわたってフットサルを愛してくれる選手を育てること」がもっと大事だと考えています。日本代表にならないと世界に挑戦できないというのでなく、ここは大人が頑張らなければいけないことですが、選手たちに夢を与えて、フットサルが大好きな子どもたちを育てていきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

## ■ 質疑応答

**中村：**育成年代の指導をするうえで、皆さん感じるところでしょうが、学業との両立があると思います。フットサル推薦というのはなく、進路のことをフットサルではできない現状があります。学業との両立をどのように取り組まれているのか、教えてください。

**田中：**ほんとに申し訳ないですが、両立できてないです（笑）。この前のブラジル遠征も期末試験の時期と重なって、テストを受けていないです。けど勉強以上のことをフットサルは教えてくれます。あと、テストのときは寝ずにがんばっている。テストも、赤点はとってないかな。フットサルでがんばれば、短い時間に集中することができるようになると思います。

**小林:**第 1 世代の選手たちは皆さん続けているんですか。

**田中：**結婚して続けている選手もいます。第 1 世代が道を作って第 2 世代がそこを通り、いま日本リーグには高校生以上で 20 人が登録しています。第 2 世代の子たちは、ユースオリンピックで 7,000 人の観客の前でポルトガルとの決勝を経験しています。北川（いまは宮本姓）はトルクメニスタンで 1 万人の観客の前でプレーしています。それを考えると、いまの日本リーグには物足りなさを感じているかもしれません。自分たちで、日本リーグ以上のことをやっていこうと取り組んでいます。

**小林：**子育てしながらプレーは続けているんですか？

**田中：**北島（いまは林姓）には 2 歳の子がいて、この前も日本リーグで得点を取っています。祖父母の協力もあります。

**小林：**もう一つ。海外遠征などの国際交流を盛んに行われていますが、遠征費など資金面はどうされているのでしょうか。

**田中：**地元の企業からのスポンサー料です。選手の自己負担はありません。先ほども言いましたが、女子フットサル、アンダーカテゴリーの育成ということで、多くの企業が賛同してくれています。

**中塚：**丸岡 RUCK のユニフォームには多くの協賛企業のロゴが表示されています。地域社会の活性化という面からも参考になる事例ではないでしょうか。ありがとうございました。

それでは小林さん、お願いします。

## プレゼンテーション③
## 小林美由紀（WE リーグ理事）

筏井りさ選手

私の話の前に、日本代表選手でバルドラール浦安の筏井りさ選手がオンラインで参加しています。練習があって抜けないといけないようなので、せっかくなのでコメントをもらいたいと思います。

彼女はもともとサッカーの選手で、いまフットサルの女子リーグで活躍されています。

**筏井：**現在バルドラール浦安「ラス・ボニータス」でプレーしています。私は 29 歳までサッカーをして、そこからフットサルに転向して、女子フットサルリーグでプレーしています。丸岡RUCKの皆さんとはリーグ戦で対戦することもありますし、中村先生は武南高校の招待大会に何度か参加させていただいたというご縁もあります。小林さんに紹介していただいて今回、途中までですが参加させていただきました。

U-18 大会の話ですが、目標を持つことはとても大切です。私たちはいま、女子のワールドカップ出場と女子フットサルの地位向上を目指して取り組んでいますが、何のためにプレーしているのか、何を目標にしているのかで悩む時期もありました。いまはプレーしながら、もっとサッカーもフットサルも楽しんでもらいたいなと思って取り組んでいます。まずは現役なのでリーグでがんばります。

U-18 年代のときを思い返すと、本気になれるものがあったからいまがあるのだと思います。結果だけじゃなくて、友だちができたり、フットボールをやっていてよかったと思います。

U-18 女子フットサルの活性化について、選手同士で話をする機会もあります。皆さんと一緒に話ができる機会も作っていきたいし、交流していきたいと考えています。私にできることがあれば協力しますので、何でも言ってください。お願いします。

**小林：**せっかくなので何か選手の方から質問とかあればいかがですか。

**丸岡 RUCK（15 番）：**フットサルとサッカーどちらがおもしろいですか。

**筏井:**すごい直球の質問をありがとうございます。サッカーは小さいころからやっていたし、めっちゃ楽しい時間が長かったのですが、サッカーからフットサルに転向して、仲間とのコンビネーションがうまくいったときとか、サッカーとは別の楽しさがあって、いまはフットサルを思い切り楽しんでいます。最初はフットサルの戦術が難しくて、それはサッカー選手あるあるなんですけど、サッカーと共通することや、逆にフットサルをやっていればサッカーに活かせることもあると思います。フットサルはとても魅力的なスポーツなので、若いうちからフットサルができている皆さんがいいなと思います。皆さんの将来がとても楽しみです。

**小林：**ワールドカップに出るって言っているんで、応援してあげてください。

**筏井：**試合会場で会ったら声を掛けてください。よろしくお願いします。

## 女子サッカーとの関わり

私はいま WE リーグの理事をしています。大学のときにサッカーを始めました。30 年以上前のことです。その頃はフットサルどころかサッカーをやっている女子はほとんどいませんでした。大学で女子サッカー部をつくると言ったら怒られました。その後、英語の先生になりたくてアメリカに行ったら、サッカーは女性のスポーツで、日本とは全然違っていました。それで感銘を受けて、私はボールを蹴ることにはまりました。

大学は筑波ですが、そのころの茨城県では、女子のチームは一つしかなく、おじさんとサッカーするしかありませんでした。ちなみに中塚さんは、その頃の「コンパコーチ」です。

ちょうど関東に 6 つぐらい大学女子サッカー部ができたので、関東大学サッカー連盟を勝手に作ってリーグ戦を始めました。いまは関東に 30 以上あり、いまでも大学女子サッカーにかかわっています。

海外女子サッカーツアーの「ブリッジ BRIDGE」をはじめたのもこのころです。毎年、自分たちでお金を払って大学生、高校生が参加してくれます。田中先生にお会いしたのもこのころで、今日は久しぶりにお会いしました。RUCK の活躍は知っていましたが、フットサルのさまざまな取り組みは初めて知りました。

その後、なでしこリーグのジェフ千葉でコーチ兼 GM のようなことをやり、2021 年の WE リーグ創設時から理事をやっています。

海外女子サッカーツアーを 30 年ぐらいやっていると、いまその教え子が来てくれるようになりました。大学・高校時代に自費でサッカーツアーに参加してくれるような子は、いまでもサッカーを続けている人が多くて、それが私の財産になっています。

海外がすべてではありませんが、日本の常識が通じないところを経験することはすごく大切だし、逆に日本の良さもわかります。私にとってもすごく大切な時間で、WE リーグの理事をやりながら、いまも私が主催しています。

## ■ 日本における女子フットボール

日本の女子サッカーの話をすると、1989 年になでしこリーグができました。歴史はそんなに長くはありません。実は世界の歴史も長くはなくて、イングランドやヨーロッパ各地では、女子にグラウンドを貸すことは約 50 年間、1920 ～ 70 年ぐらいの間は禁止されていました。女子がボールを蹴ることが許されなかった時代が長く続いていたのです。

なでしこジャパンが世界一になったのは 2011 年です。そこから U-17、U-20 と 3 世代で優勝し、当時世界で唯一、3 世代の FIFA ワールドカップを制覇した国となりました。いまではスペインもそうなっています。

## ■ 世界の女子サッカーの動向

世界は、ジェンダー平等を背景に、いますごいことになっています。フットボールは世界のスポーツです。ヨーロッパだとみんなが楽しんでいますが、男子だけでなく女子もやれるようにということで、男子のビッグクラブはすべて女子チームを持つようになりました。

スペインはプロではなかったのですが、おととし、政府が 20 ～ 30 億円出してプロにしました。

アメリカは 2 回、女子のプロサッカーリーグがつぶれています。しかし、いまは投資の対象となっていて、10 億円で勝ったチームを 100 億円で売却するぐらいの話もあり、すごく盛り上がっています。平均観客数は 19,000 人以上です。ここ数年でこうなりました。

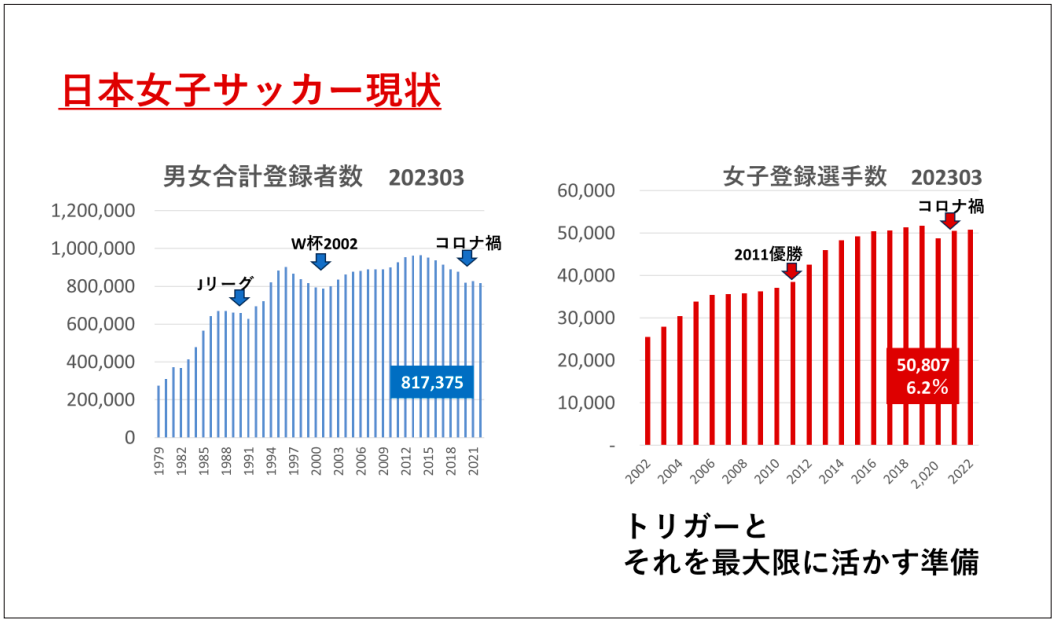
日本は 2011 年に世界チャンピオンになりました。世界一というのはほんとうにすごいことで、日本のボール競技を見渡しても、世界一はほとんどありません。日本の女子サッカーは世界中から尊敬されています。精度の高いスキルで 2011 年に優勝し、世界の女子サッカーは大きく変わりました。それまでは体の大きな人がボールを蹴って走るといった感じでしたが、小さな体でしっかりとスキルを持って、アジリティを持って戦う日本の女子サッカーを、世界各国がモデルにしました。日本の女子サッカーは、フットサルもそうだと思いますけど、世界から一目置かれています。

実は先日、UEFA 女子チャンピオンズリーグ決勝前の国際会議に、WE リーグの代表として呼ばれました。WE リーグのシステムや理念をプレゼンしてくれということでした。WE リーグは、Women Empowerment リーグで、「女性活躍」を大きく謳っています。ヨーロッパのフットボール会議にアジアの人が呼ばれてプレゼンすることは、男子だったらありえないと思います。日本の女子サッカーがすごく尊敬されていることがわかります。皆さんも世界に行ったときに感じるでしょう。

去年、女子のワールドカップがニュージーランドとオーストラリアで開かれました。日本はグループステージで、優勝したスペインに 4-0 で勝ちましたが、残念ながらベスト 8 で終わりました。

閉会式はこういう感じです（動画）。決勝前の入場シーンです。8 万人ぐらい入っています。満員でした。私は男子のワールドカップも結構行っていますが、変わらなくなってきました。

## ■ 日本の女子サッカーと WE リーグ

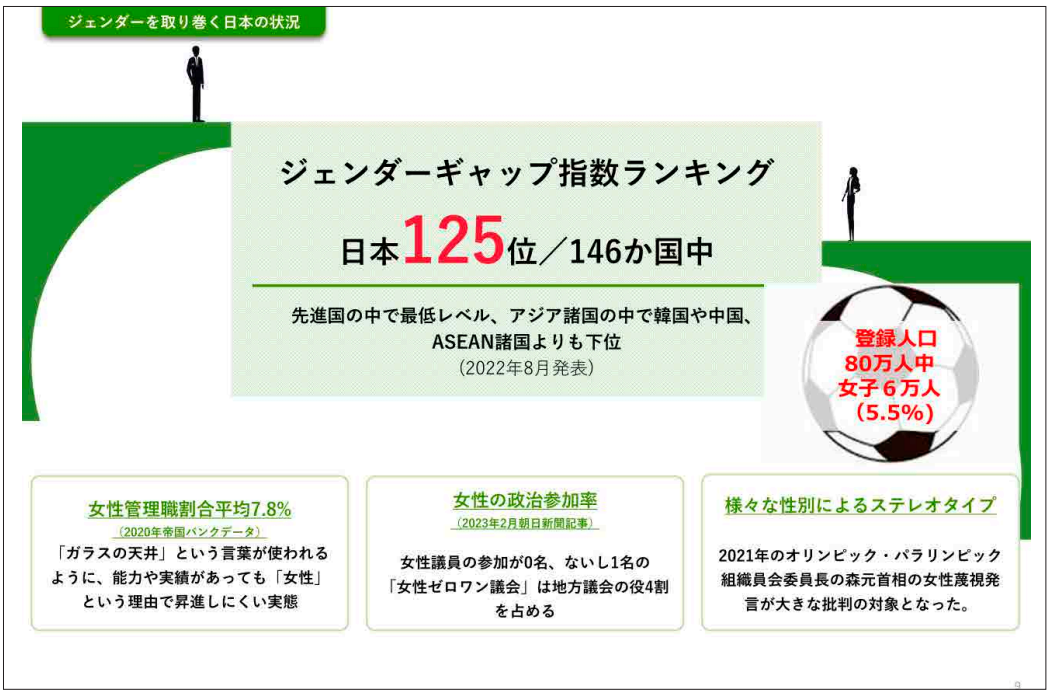



日本の女子サッカーの現状を登録人数から見ていきたいと思います。

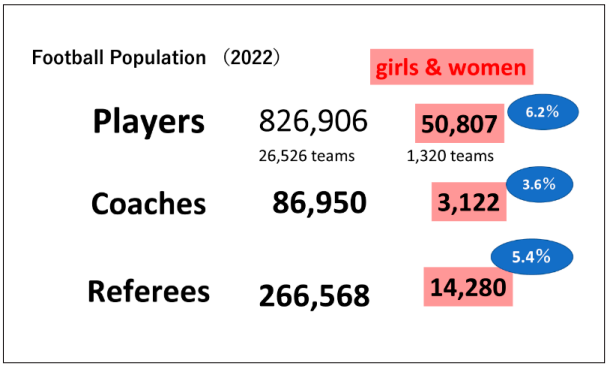
男子は 80 万人で、女子はその 6%、5 万人しかいません。あとで女子フットサルの人数も出てきますが、男子 100 人に対して女子は 6 人しかやっていないということです。

少子化で全体の人数は減っていますが、女子については、コロナで減ってはいるものの、男子よりはキープできています。もともと女子は、やりたい子が全部できているわけではありません。場所があればやるんです。フットサルも含めたサッカー界全体で、女子の場を増やしていく必要があります。

もう一つ、ジェンダーギャップの観点からみていきたいと思います。国の中で男女がどれくらい平等なのかという数値です。教育や健康の分野、例えば学校の先生の男女の数はそれほど違いがありませんが、会社などの管理職と議員さんについて女性率は著しく低いです。国の方針を決める議員さんのうち、女性は約 10%。国内には男女同数いるのに、その代表の議員さんがこの比率だと、みんなの幸せにはつながりません。会社の管理職も同様です。職場で上の方をみるとおじさんしかいない。ジェンダーギャップ指数ランキングでは 125 位。いまは 118 位ですが、これは先進国の中でビリです。



日本の女子サッカー人口が男子の 6% というのは、会社の管理職や議員さんと同じかもっと低いぐらいです。ここを変えないといけません。




サッカーの中でももう少し詳しく見ていくと、選手は男子の 6.2% ですが、指導者は 3.6%、審判は 5.4% です。女性が少ない。フットサルも同じぐらいだと思います。

「ガラスの天井」という言葉があります。上に行くのが全てじゃないけど、上を目指しているのに「ガラスの天井」があって上に行けないということです。

このような状況を打破しようと WE リーグが始まりました。「女性活躍」を目指すリーグです。日本の女子サッカーは世界一になったことがあるので、サッカーで女性スポーツを根づかせ、なでしこジャパンを再び世界一に。そして世界一アクティブなコミュニティ、世界一のリーグ価値を目指して WE リーグが立ち上がったのが 2021 年です。

WE リーグはトロフィーをガラスで作りました。見えないけれどバリアがある。それを崩していきましょうということです（映像）。

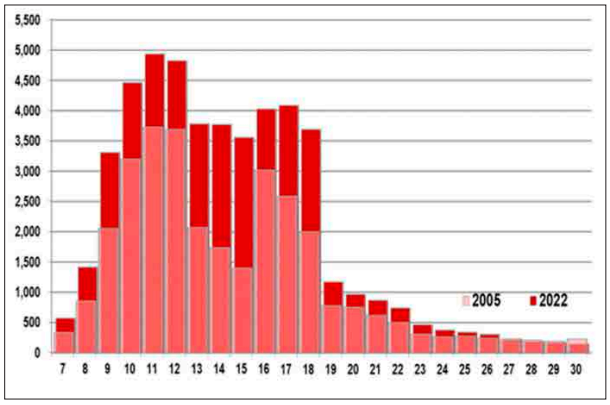
WE リーグの理念は「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」です。女子が幸せになるためではなく、誰もが、一人ひとりが幸せになれるようにということです。参入基準は次のとおりです。こういうことを通して女性活躍社会を目指しています。いま 12 チームになりました。

ⅰ．コーチ、監督などのコーチングスタッフのうち、1 名は女性とする
ⅱ．クラブ役職員の 50%を女性とする
ⅲ．意思決定者の 1 名は女性とする
ⅳ．スタジアムに託児所を設置する

やっと女子サッカーにプロリーグができました。フットサルにもきっとできる、追いかけなきゃいけないと思います。

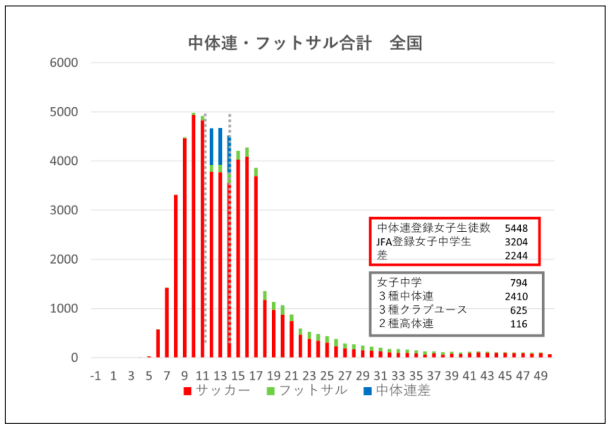
## ■ 登録人数データからわかること

女子サッカーの JFA 登録者数を 2005 年と 22 年で比較しました。全体的に U-15 年代、中学生が少ないことがわかります。




女子サッカーの普及　現状

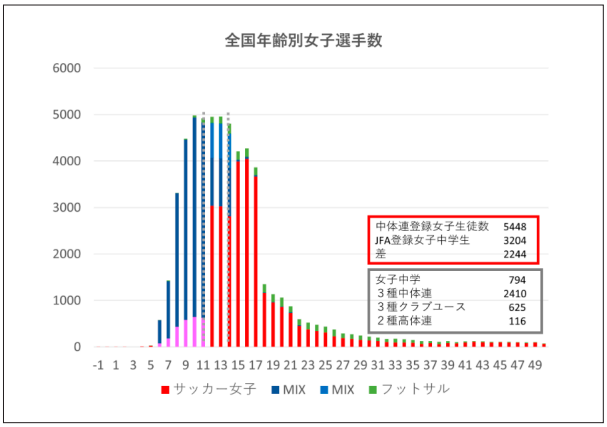
2023 年度の年齢別登録者数に、中体連とフットサルを加えたのが次のグラフです。




中体連は JFA の登録人数にカウントされません。中学の男子の部活動に混ざってやっている女の子や、緑色で示したフットサルをやっている女子を加えると、U-15 年代の総数はそれほど下がりません。フットサルでもサッカーでもどちらでもいいので、フットボールに関わる人口を増やしていけば、サッカー界全体が

盛り上がります。フットサルは少人数でできるので、大きな可能性があると思います。

その次のグラフは、MIX 層を分けて表したものです。サッカーもフットサルも両方やってくれればいいと思います。サッカーからフットサルに行ってもいいし、フットサルからサッカーに行くのもありです。こうした MIX 層も大事にしていきたいですね。




## ■ U-18 女子サッカー/フットサルのあゆみと今後

グラフからわかるように、サッカーもフットサルも 18 歳ぐらいで競技人口がぐっと減ります。そこで、U-18 女子サッカーのあゆみを少しみてみました。

- 1992　高校女子サッカー大会
- 1996　U15女子サッカー選手権
- 1997　U18 女子サッカー選手権
- 2004　全日本女子フットサル選手権
- 2011　U15女子フットサル選手権
- 2012　高校総体（インターハイ）女子の部創設
- 2012　U18女子サッカー選手権→U18クラブのみの大会へ
- 　　U18関東プリンセスリーグ
- 2018　JCY（日本クラブユース連盟）女子U18大会開始
- 2020　JFA　U15 女子サッカーリーグ
- 2022　関東U18リーグ

高校の女子サッカー大会は 1992 年からと、けっこう前にできています。JFA 主催の U-15 女子サッカー選手権は 1996 年から、U-18 は 1997 年にはじまります。U-15 が先にできたのは、中学生年代の大会がなかったからということでした。U-18 女子サッカー選手権大会があとにできたのは、高校女子サッカー大会があったからですね。

フットサルについては、2004 年から大人の全日本女子フットサル選手権ができ、U-15 は 2011 年に始まりますが、U-18 大会はいまだにありません。

2008 年に高体連サッカー専門部に女子部ができ、2012 年から高校総体（インターハイ）のサッカーで女子の部がはじまります。男子と同じように、選手権とインターハイが行われるようになりました。このときに U-18 女子サッカー選手権は U-18 クラブのみの大会となります。

私はこのころジェフ U-18 の監督をしていたのですが、U-18 女子のクラブチームはすごく少なかったんです。U-18 クラブは、男子サッカーもフットサルもそうですが、作りにくいんです。

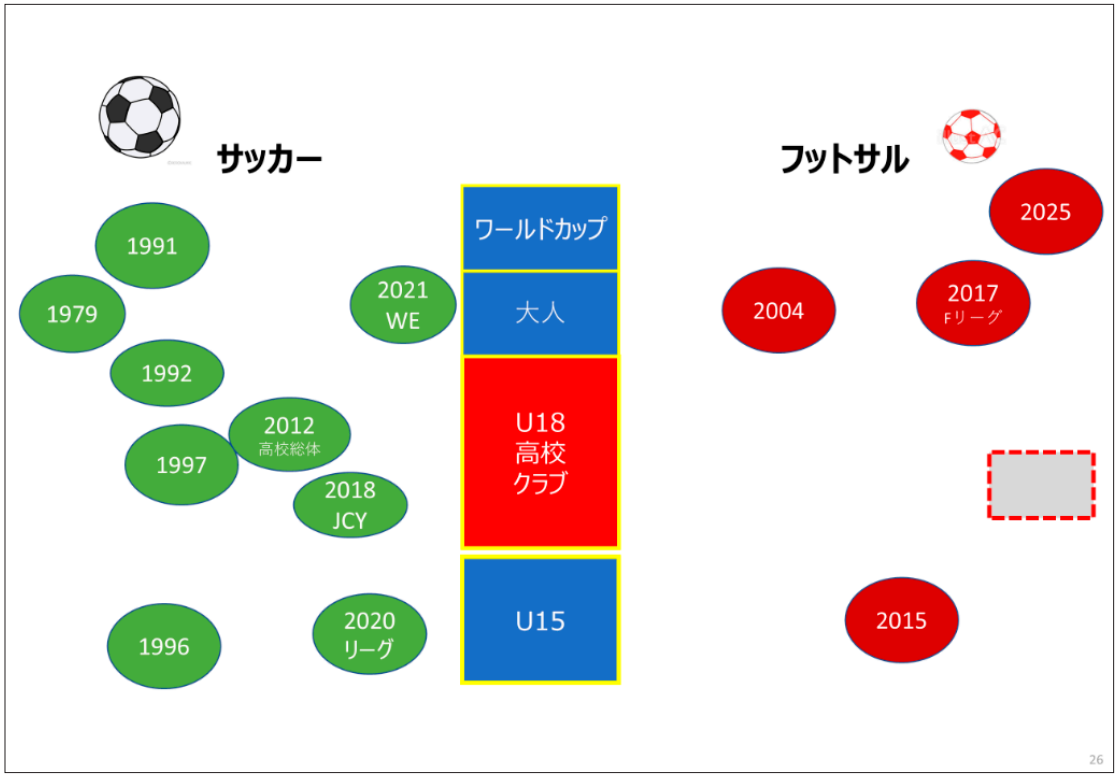
U-18 クラブと高校が一緒にやっていたころも、勝ち上がっていくクラブは日テレメニーナだけでした。2012 年に U-18 女子サッカー選手権はクラブチームだけの大会になったので、U-18 クラブを増やそうということで U-18 関東プリンセスリーグを勝手に始めました。クラブ強豪の浦和、メニーナにも協力してもらい、関東圏の女子クラブチームに声をかけました。そのとき、地域の女子クラブは中学生が多くて高校生は少なかったのですが、U-18 リーグでは最初は、高校生が 2 名いれば、リーグに参加できることにしました。大差のつく試合もあったけど、U-15 でやっていた子が U-18 でも続けるようになり、チーム数は少しずつ増えていまにつながります。

関東プリンセスリーグは有志のリーグでしたが、2022 年からは関東 U-18 女子リーグとなり、高校もクラブも一緒にやっています。2018 年からは JCY（日本クラブユース連盟）の U-18 女子大会がはじまりました。ちょうどいまやっているところです。

本当は U-18 女子サッカーのプレミアリーグができるはずだったんです。ですが、高校女子サッカー選手権が 47 都道府県の代表になり、女子サッカーの中では人気があって TBS が放送してくれることもあり、JFA はそちらを優先しました。女子が一番やりやすいのはまずは高校だろうということです。

サッカーでさえ、女子のクラブは難しいです。フットサルはもっと難しいかもしれませんが、少人数でできます。ワールドカップも始まります。そういう意味では可能性があると思います。最初は自分たちでやっていくしかないと思います。

日本のフットボールを盛り上げるためには女子を増やしていくしかありません。サッカー協会はお金がないので、スポンサーは自分たちで探す。ただ日本だと、男女平等を掲げてもなかなかスポンサー獲得につながりません。WE リーグが困っているところです。世の中がまだ追いついてきていないのだと思っているので、それは女子フットサルとサッカーが頑張っていかないといけませんね。




このスライドは、女子大会が始まった年代を示したものです。サッカーはこれだけあるけど、フットサルはまだないし、ワールドカップもようやく 2025 年にはじまるぐらいです。ワールドカップができて世界が見られるようになるというのは大きなきっかけで、ぜひご家族で見てほしいです。

けど、U-18 がないですね。子どもたちが続けていくうえでも、すごく大事なところだと思います。

私はサッカーのオーバー 40 とか 50 にも出ています。いずれはそういうのも作り、生涯にわたって女子がサッカーやフットサルに関わっていけるようにしたいですね。

サッカー選手・フットサル選手を、少女たちの夢の職業の一つにしていきたいと思います。そのためにもまずは WE リーグが成功していかないと、フットサルのプロリーグにもつながりません。まずは WE リーグに注目していただきたいですね。ボールを蹴っている仲間なので。

長くなってしまいましたが、以上です。ありがとうございました。

**中塚：**どうもありがとうございました。メチャクチャ熱く語っていただきました。その思いを受け継ぎ後半戦も、あと 30 分しかありませんが、会場にいらっしゃる皆さんとともに熱く語っていきたいと思います。ではここからは本多さんに進行を譲ります。

## 参加者からの意見

**本多：**では会場におられる皆さんから、コメントをいただきたいと思います。

ちょうど今日、会場のグリーンアリーナ神戸で U-18 女子の大会が行われました。去年は決勝で北海道選抜に負けた福井丸岡 RUCK が、今年は同じ相手との決勝戦で見事優勝を果たしました。

まずはキャプテンの小林さんから、今大会を振り返ってのコメントをいただきたいと思います。

**丸岡 RUCK（19 番）：**丸岡 RUCK キャプテンの小林愛心です。今日の大会の感想は、自分たちはなかなか同年代との試合が少ないので、こうやって試合をやらせてもらって、参加チームの皆さんと友だちになって、いい思い出になりました。こういう大会をやってくれると、U-18 の全国大会にもつながると思うので、こういう大会をしてほしいなと思いました。どうもありがとうございました。

**本多：**大会主催者として「言わしてしまった」ようなすばらしいコメントをいただきました（笑）。

先ほども話がありましたが、やはり関東の方が現状としては先行しています。東京都リーグで取り組まれている二階堂高校の羽生田先生にコメントをいただきます。

**グリーンアリーナ神戸カップ　U-18フットサルフェスティバル**

**U-18女子　　2024/8/1**

| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 勝点 | 得点 | 失点 | 得失点 | 順位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 神戸常盤女子高校 フットサル部 | | 0 × 2 | 0 × 2 | 2 × 3 | | | | | | | 0 | 2 | 7 | -5 | 10 |
| 2 | Fuerza 宗像 U-18 | 2 ○ 0 | | 0 × 5 | 1 △ 1 | | | | | | | 4 | 3 | 6 | -3 | 5 |
| 3 | 福井丸岡RUCK サテライト | 2 ○ 0 | 5 ○ 0 | | | 2 ○ 1 | | | | | | 9 | 9 | 1 | 8 | 1 |
| 4 | 日本女子体育大学附属 二階堂高等学校フットサル部 | 3 ○ 2 | 1 △ 1 | | | 3 ○ 2 | | | | | | 7 | 7 | 5 | 2 | 3 |
| 5 | 鹿児島実業高校 フットサル部 | | | 1 × 2 | 2 × 3 | | | | | | 2 △ 2 | 1 | 5 | 7 | -2 | 8 |
| 6 | 武南高校 | | | | | | | 1 × 3 | 0 × 2 | 3 △ 3 | | 1 | 4 | 8 | -4 | 9 |
| 7 | 大阪成蹊女子高等学校 | | | | | | 3 ○ 1 | | 1 × 2 | 3 △ 3 | | 4 | 7 | 6 | 1 | 4 |
| 8 | 北海道女子U18選抜 | | | | | | 2 ○ 0 | 2 ○ 1 | | | 5 ○ 1 | 9 | 9 | 2 | 7 | 2 |
| 9 | P.S.T.C.LONDRINA VALE | | | | | | 3 △ 3 | 3 △ 3 | | | 1 △ 1 | 3 | 7 | 7 | 0 | 6 |
| 10 | 阪神ユナイテッド | | | | | 2 △ 2 | | | 1 × 5 | 1 △ 1 | | 2 | 4 | 8 | -4 | 7 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 決勝 | 福井丸岡RUCKサテライト | 5 - 2 | 北海道女子U18選抜 |

**羽生田：**二階堂高校フットサル部の羽生田です。中村先生のお誘いに乗らせてもらっていろんな大会に参加させてもらっています。最初にホンダカップに出たときに全国大会があることを知り、生徒たちには大きな目標になりました。なかなか大会がなかったので、ホンダカップとか、ここでやっているグリーンアリーナ神戸カップに参加することで、生徒たちが夢を持ってフットサルに取り組むことができています。

東京都では昨年度から女子のU-18リーグが始まりました。最初でしたのでまずは会場づくりです。ラインを引くのですが、何センチ幅で何メートルなのか。私自身フットサルをやっていたわけではありません。第2PKというものが、あるということは知っていましたが、それが何メートルのところで、マークは円なのか半円なのか、全然わからない状態です。わからないところを教えてもらいながらやってきました。

リーグでは副審を生徒が行います。普段はプレーするだけなので、審判に対して「マイボールだよ」などとブツブツ文句を言っていますが、実際に自分たちでやってみるといかに大変かがわかります。こうしたことに、リーグを通して気づくことができました。

何十チームも参加したわけではありませんが、東京都でリーグが始まったことで、次の目標を立てることができるようなりました。また9月から始まります。審判のやり方だったりコートの作り方などを学んで、次の世代につなげていきたいと思います。こういう大会があることで、生徒が一所懸命練習に取り組むことができます。ありがとうございます。

**本多：**ありがとうございます。先ほどからホンダカップという名前が出てきます。ホンダカップは今年で28年目になります。女子のカテゴリーは、中塚さんの筑波大附属高校女子蹴球部が、毎回大人のお姉さんたちに5-0、8-0と打ちのめされて、目に涙を浮かべて帰っていく姿を見て、そろそろU-18女子のカテゴリーが必要かなということで作らせてもらいました。それをつくると次は、福井から来た田中さんに、U-15、U-12を作ってくれと…。

大会ができると、全国大会がない中で皆さん目標にしてくれるようになります。その後はコロナがあっていろいろ大変でしたけど、なんとか続けてこられました。

こうして全国大会をやっていると、兵庫県でも大会やってくれという方が出てきます。今日はその張本人が来ています。兵庫県フットサル連盟でU-18を担当されている硲田さんです。

**硲田：**神戸国際大学附属高校フットサル部顧問の硲田です。2003年に本校で、サッカー部を途中でやめてふらふらしていた子たちが、たまたま学校の隣にフットサルコートがあってそこで集まってフットサルをするようになりました。ちょうど日韓ワールドカップの年です。サッカー部はやめたけどフットサルというスポーツがあるからやってみたい。顧問をしてもらえないかと言われて同好会が立ち上がりました。その子たちが卒業して何世代かしたあと、フットサル同好会があるということを聞いて入学してくる子も増えてくるようになっていまに至ります。

最初は試合がないので、民間のワンデー大会に出ていました。当時はワンデー大会も景品が豪華で、優勝したらユニフォームがもらえたりしました。そういうのを目当てに出ていましたが、徐々に同世代でやりたいとなってきます。いろんなところを探していく中で本多さんと知り合い、U-18の大会を兵庫でやりましょうとお願いしました。初年度はクラーク高校という通信制のフットサルコースを持っている学校を中心に始まりましたが、翌年からはうちが運営してチームも参加させてもらっています。

本多さんにはリーグ戦もやってよとお願いしました。そのとき言われたのは、カップ戦は作ってあげるけどリーグ戦は違う。リーグは自分たちでつくってやるものだということです。

それを聞いて関西のリーグ戦を、大阪、京都、兵庫のクラブに声を掛けて作りました。何年かたって、関西リーグに参加していたチームが各県でリーグをやるようになります。いまは兵庫県でもU-18リーグをやっています。これが関西の男子の様子です。しかし男子ではいま、各県リーグのチーム数が増えていかず、関西リーグに戻す話も出ています。

男子に比べて女子の方が圧倒的に大変かと思いますけど、U-18女子フットサル大会は必要です。各県から全国へ。夢を持ってやっていきましょう。

**本多：**ありがとうございました。ホンダカップの全国大会は、オーシャンアリーナでやっていました。その大会に神奈川県代表の武相高校が来て、ホンダカップ以外にも大会やってよと言われたのが12年前でした。日本のU-18女子の状況は、12年前の男子の状況に似ていると感じています。大友先生はいま、JFAで日本のU-18フットサルの今後を方向づけるところにおられます。大友先生、お願いします。

**大友：**武相高校フットサル部顧問の大友です。武相高校は横浜にある男子校です。男子校と言っても勉強をがんばる学校ではなく、どちらかというとスポーツが好きな、日本では絶滅危惧種となっているタイプの学校です（笑）。

私自身は 2002 年からフットサル部を指導していて、いま 22 年目です。神奈川県のフットサル大会も今年で 19 年目になります。東京でやっている大会に出たいと言ったら「神奈川の人は出られません」と断られ、神奈川県サッカー協会に電話したら「あんたがやれ」となって、自分自身がサッカー協会に入ってやっていくようになりました。

神奈川県でも女子フットサルの取り組みは長年やっています。U-18 女子リーグがあり、去年から U-15 年代も始めました。大学女子リーグはまだですが、かなりやれている方だと思います。6 チームぐらいいれば年間リーグが十分楽しめます。年間リーグをやっていると、楽しそうだなということで新たなチームが入って増えてきます。

神奈川の U-18 チームは、普通の県立高校のフットサル部があることが特徴です。男子も女子もです。例えば県立鶴嶺高校や市ケ尾高校にはいずれも男女があって、男女あわせて 100 人以上の部員がいます。共に JFA のフットサルチーム登録人数としては飛び抜けています。

私は神奈川県フットサル連盟の理事長を務めていましたが、昨年度途中から別の方がやっています。女子フットサルも別の担当者です。私は昨年から関東フットサル連盟のユース担当理事と、今年から JFA 技術委員会フットサル部会で育成年代の担当をやっていて、各地の情報を集めて上げていく役目を担っています。任期は 2 年です。いま、地方に男子の U-18 フットサルを広めるのに苦労しています。先ほども言ったように、6 チームでリーグ戦を 1 年やっておもしろさを見出してくれれば仲間が増えます。そのことを広げていきたいと思います。強化や普及は同時進行でやっていけます。自分たちが楽しくやれるリーグを充実させ、仲間を増やす。男子も女子も盛り上げていきたいと思います。

**本多：**ありがとうございました。次は地元の兵庫から。今日は朝から設営やボールパーソンまで、阪神ユナイテッドとともに全て担ってくれていた神戸常盤女子高校の小野さんです。兵庫は今年から U-18 女子リーグが発足しました。そのあたりの話も含めてしていただければと思います。

**小野：**神戸常盤女子高校フットサル部監督の小野と言います。いろんなことをやっていまして、女子の選抜監督をやったり、いまは連盟の理事をやったりし

ています。もともとクラブを立ち上げたときは自分たちだけでやっているような部だったので、対戦相手を見つけるのも大変でした。そんな中、自分がいろんな立場になることによって知り合いが増え、それによって対戦相手や試合の企画ができるようになっています。

武南高校とよく似た環境です。周りの環境も部員の環境も。関東のリーグ戦や武南招待のことをホームページで見て、うらやましいなと思って指くわえてみていました。関西の方はほんとに何もない。ホンダカップ以外は特に大会もなく、同世代とやることはほぼなかったので、じゃあ自分でやってみようということで、今年のゴールデンウィークに「常盤カップ」という名前で大会をやってみました。2日間開催しましたが、両日とも11チーム、県外も含めて来てくれました。丸岡RUCK、新潟や香川からも来てくれました。そうした大会をすることで同世代と試合ができる。とくに関西圏でそういう機会がなかったので、そういう大会をつくることが、自分がやってきたことの証ですし、これからも続けていきたいと思います。いろんなチームを紹介していただければと思いますし、できれば関東のチームも。こちらからも行きますので、来ていただければと思います。

兵庫県でも今年からU-18リーグを立ち上げます。なかなかチームが集まらなくて、県外のチームも含めて6チームで、9月に開始します。いま武相高校の大友先生から勇気をもらえる言葉をいただきました。6チームあればなんとかなる。ちょうど6チームそろいました。

兵庫県では毎回「スポット参加」ということで、その日だけ参加して、リーグ参加チームとやってみたいな、来季から入りたいなというというところを、ワンポイントで受け入れています。そういうところもご紹介いただければと思います。兵庫県連盟が運営している神戸のペナルティスタジアム、屋根付き施設で正規のコートでできます。西日本が中心にとなるかもしれませんが、こういうことをしていますので、今後ともよろしくお願いします。以上です。

**本多：**ありがとうございました。いろんな地域で皆さんがU-18女子フットサルを盛り上げようとされているのがわかります。

よく「東京はいいですよね」「神奈川はいいですよね」という話を耳にします。人口が多い地域はやりやすいようにみえるのでしょう。しかし実は、熊本県でも10チーム以上、富山県でも15チームほど集まってU-18男子リーグができています。地域でがんばる方がいらっしゃるとできるのだなということです。U-18女子も盛り上げていきましょう。

## クロージング

**中塚：**時間のたつのは早いもので、あと10分ほどでお開きです。クロージングの時間になりました。

このシンポジウムにご後援いただいている、兵庫県フットサル連盟（HFF）会長の西田俊一様からご挨拶をいただき、最後に演者のお三方から一言ずついただきたいと思います。

では西田様、よろしくお願いします。

**西田：**ふと見渡すと、いつのまにか一番年寄りの感じでここにおります。

フットサルというと、先ほどの話にもありましたが、1994年にFIFAが室内サッカーを統一してフットサルと名前を付けてはじまりました。私は芦屋市出身ですが、阪神淡路大震災が1995年1月17日。その後、阪神間のグラウンドはほとんど瓦礫だまりでそのあと仮設住宅になりました。あいた体育館でフットサルしようとやりだしたのは1995年の秋ごろだったと思います。1996年の2月に芦屋フットサルカップを行い、4月から芦屋フットサルリーグ、小学校のリーグをはじめました。たぶんこれが最初にやったフットサルのリーグ戦です。それをはじめているときに、HFF前会長の中桐さんが兵庫県FAでフットサル委員会を立ち上げ、一緒に協力してやれへんかとなり、芦屋リーグ、姫路リーグ、西宮リーグができ、リーグ戦ができないところは兵庫県リーグに入ってやるようになりました。2年ぐらい後に関西リーグができました。震災から来年で30年です。

芦屋女子フットサルリーグもつくりました。「六甲みそ」が冠スポンサーとなり、「六甲みそリーグ」としてスタートしました。

フットサルの30年を振り返ってみると、もっとも人気、勢いがあったのが、はじまって2～3年たった2000年ちょっと前のことです。テレビでも「やべっち」でサッカー選手がフットサルをやったり芸能人と試合をしたり。全国のテニスコートがフットサルコートに変わっていきました。Fリーグが

2007 年にできましたけど、最近ちょっとフットサル元気ないなと心配していました。しかし今日の皆さんの熱い話を聞いて安心しました。これからフットサルは底辺から、育成年代から育てていく。トップも大事ですが、底辺から育てていく環境づくりが大切です。

いい機会を設けていただきました。どうもありがとうございました、

**中塚：**では演者の皆さんから、今後につながるコメントを。

**中村：**僕からも話をさせていただきましたが、学ぶことの方が多かったです。今日受けた刺激や学んだことを、チームや地域に持ち帰って、いい方向に持っていけきたいと思います。今後とも武南高校フットサル部をどうぞよろしくお願いします。

**田中：**宮田さんからひとことお願いします。

**宮田：**阪神ユナイテッドの宮田亜里紗です。監督をして 3 年目になりますが、1 年目にフットサルとサッカーを一緒にして取り組んだところ、「何でフットサルせなアカンねん」というのが選手の中であり、2 年目には「フットサルはしたくない」という選手が 6 人ぐらい、ほかのチームに行ってしまいました。いまやっている選手はすごく楽しくフットサルに取り組んでいます。やり続けること、指導者がフットサルの楽しさを伝え続けることが大事なんだなと感じています。ありがとうございました。

**小林：**いろんな人が続けてくれたからこそいまがあると思うし、話を聞いている選手たちが、つくってもらうものではなくて、自分で感じたものを作っていくことが大事だと思います。仲間とボールを蹴ることはすごく楽しいんだよということ。そういう場所をみんなでつくっていきましょう。

今日はありがとうございました。

**中塚：**田中さんいいですか（笑）。

オンラインの皆さんからの発言をいただくチャンスがありませんでしたが、それぞれの胸に熱いものが刻まれたのではないかと期待しています。

小林さんの話にもありましたが、作ってもらうのを待つのではなくて、自分たちで作ってください。小林さんご自身が、大学で女子サッカーチームを作って、周りの学校に声を掛け、「12 月 25 日のクリスマスは神戸でサッカーやるぞ」と始めたのが女子のインカレですよね。やりたい人がやりたいからはじめ、おもしろがってやっているところに次の仲間が集まってくるのだと思います。

たぶん立ち上げるのは簡単です。続けていくことにものすごいエネルギーがかかります。そこにしっかりした理念があれば続けられます。そのことを田中さんが語ってくださいました。

今回の一つの落としどころは、JFA 全日本 U-18 女子フットサル大会の創設です。立場は違いますが、それぞれで働きかけを続け、現場で汗をかきながらやっていきましょう。

今日の中身は報告書の形にして、NPO サロン 2002 の HP に掲載していきたいと思います。

どうもありがとうございました。これでシンポジウムを閉会します。

## 補足：参加者からのコメント

### ■ オンライン参加者

**野村忠明**

僕は、精神障がい者フットサル「ソーシャルフットボール」の埼玉ソーシャルフットボール協会の運営委員を担当しています。ソーシャルフットボールも女性選手が、ソーシャルフットボール女子日本代表を作りたいと活動が始まったところで、女子選手の活動が広がっていくことを願っているところです。お話、たいへん勉強になりました。女子フットサルの全国大会が開催されるよう、応援しています。

**土居陽治郎（国際武道大学）**

本日、女子フットサル、女子サッカー関係者の熱量を拝見（拝聴）でき、我々の水泳（水球）ではまだここまでのエネルギーがないことを痛感。大会を積極的に開催しようという熱量が物事を進める大きなキーであることを改めて理解しました。

プールの場合、これがなかなか難しく、大会準備や運営ではどうしても多くの人手を必要とし、このハードルをどうクリアしていくかも考えさせられた次第。ありがとうございました。

## 福井丸岡 RUCK の選手

(8 月 4 日にいただいたコメント)

**〈学んだこと〉**

- 幸せになるとは自分のためだけに行動するのではなく、仲間と一緒に夢に向かって努力をすることだと学びました。夢を叶えることはもちろん幸せになれるけど、それ以上に同じ夢に本気で向かっていく仲間と一緒にいることができるのがほんとうに幸せなんだと改めて思いました。
- フットサルはサッカーと違って大会が少なくて、有名でないということが分かりました。それでも、大会を開いてくれる方がいたり、フットサルを広げようとしている方が沢山いるということがわかりました。高校生年代の子達とフットサルをしたかったら、自分たちももっと発信をしてフットサルという競技のことを知ってもらう必要があると分かりました。
- 女子サッカーや男子フットサルにも同じ現状が今までにあって、そこからプロリーグができたので、女子フットサルもできるはずであること。フットサルで 1 つの目標に向かってチームで頑張ることは、将来にとっても幸せになること。
- 大会を作ることは簡単だけどその大会を継続していくのが難しいことがわかりました。女子の大会などはスポンサーも付きやすく、男女差別や SDGs への取り組みにも関わっていることがわかりました。色々な活動が行われている中でプレーしている選手もしっかり発信して、フットサルについて知ってもらうことが大切になってくることがわかりました。
- 女子 U-18 の大会がどの都道府県でも開こうと、たくさんの人が頑張っているけど、自分くらいの子や中学生はフットサルを知らなかったりしてチームができなかったり少なくて他の県に行って試合をしに行かないといけない状況になっていることがわかりました。誰かにやってもらったり、待っていても大会がすぐできるわけではないので、フットサルについて広めたり、女子の大会を開いて欲しいとか、SNS で表現して自分から行動することが大事だとわかりました。
- シンポジウムで学んだことは、武南高校の中村先生や参加してくださった方々がみんな同じ方向や目的（女子の U18）に向かって動いてくださっていたり、目を向けてくださっていることを感じ、心の中だけじゃなくて周りの人に発信して知ってもらって仲間を増やすことの大切さを学びました。また、フットサルの楽しさを知ってもらってフットサルプレーヤーが増えたり、盛り上がるためにも口とか心止まりにするんじゃなくて発言、発信していくことの大切さを学びました。
- フットサルって何？ってなっている人も多くて日本ではメジャーなスポーツになっていないから、フットサルの面白さとかを伝えていかないといけないと言うことを学びました。U-18 女子の全国大会を開くためには、自分たちのフットサルしている U-18 女子の活躍の場が少ないから、プレーしている自分たちがもっと、SNS とかで発信して、自分たちの思いとかを伝えていかないと行けないことを学びました。また、女子のサッカーもフットサルのやっている人の人口が男子に比べて少ないということがわかったので、もっと日本中の女の子にサッカーやフットサルの面白さを伝えてサッカーやフットサルの人口を増やしていかないといけないと思いました。
- 女子フットサルはサッカーと比べると普及率が少ないと言うことがわかりました。でもそれを解決するためにたくさんの人が女子フットサルを盛り上げようと色々な計画をしていることがわかりました。でも海外ではフットサルは日本よりも普及していてトップチームたちが国を通してフットサルを学びに行っている理由がわかりました。
- 女子フットサルや、女子サッカーは男子サッカー、男子フットサルに比べてあまり有名ではなくてもっと女子のサッカー、フットサルを盛り上げるために色々な活動に取り組んでいる方がいることがわかりました。日本での交流だけでなく、海外にも目を向けて海外の選手との交流が大切だったことがわかりました。
- 女子のフットサルは、男子サッカーとかに対してすごく少ないため、女子フットサルを広めようと色んな人達が色んなことを行っていることがわかりました。フットサルをする時に、色んな目標を立てることで向かうべきところがあるためすごく頑張ろうという気持ちになるからそれはとても大事だと思いました。自分たちも女子のフットサルを広めるために、何か役に立てることがあったらやりたいなと思いました。

**〈活かすこと〉**

- U-18 の女子の大会を増やしてほしいとただお願いしているだけではなく、今日のグリーンアリーナみ

たいに他チームと交流して仲間を増やしたり、SNS で発信したり、自分たちから行動していくことが大事だとわかったのでこれからもいろいろな人とコミュニケーションをとるようにしていきたいです。

- フットサルという競技があるということを知ってもらうためにこれからも SNS 発信をしていくことが大切だなと思いました。今日のような自分たちと同じ年代の子たちとフットサルができる機会があったら自分から積極的に話しかけて友達をつくってフットサルを楽しんで行きたいです。
- 女子フットサルも自分たちが女子フットサルの魅力を発信し続けることでプロリーグやホーム＆アウェイの試合ができたりするはずなので、Twitter の発信も続けることが大事だと思った。自分のためだけにフットサルをするんじゃなくて、今までの恩返しや仲間の幸せも含めて楽しむべきだと思ったので、もっと自分から積極的にフットサルのことを投稿したり意見を言うようにしたい。
- しっかり X を投稿したりフットサルの魅力をどんどん伝えていきたいです。また、同世代の人達との交流をすることでもっともっとフットサルの魅力を伝えることが出来ると思ったのでただフットサルができる環境を作ってもらうだけじゃなくて自分達で発信したりしてフットサルを広めて行きたいです。
- U18 の女子のフットサルの大会が、今現在は少ないから、もっと開いて欲しいとかを自分で発信できるようにしたいです。U18 の女子の大会があった時に色々なチームの人とコミュニケーションをとって仲良くなれるようにしたいです。もし高校生や中学生が自分達の試合を見た時に、フットサルしてみようかなとかフットサルしたいって思ってもらうために自分のためにフットサルを楽しんでやるのではなく、見てる人に楽しんでもらえるようにしたいです。
- 最後に小林さんがおっしゃっていたように誰かがやってくれるとか大人の人がやってくれるじゃなくて自分たちで発信して作っていくことも大切だなと感じたので、今後に活かして、継続して積極的に発信していくようにしたいなと思いました。
- フットサルを日本でメジャーなスポーツにしていくために、今日学んだフットサルは見ている人、プレーしている人を幸せにするということを学んだので、もっと自分たちがフットサルのことを発信してメジャーなスポーツにしていくこと。U18 女子フットサル全国大会を開くために、指導者や大人の人が言うのではなく、やっている自分たちがもっと思いを伝えるために SNS とか使って発信をしていくこと。
- いろんな人のフットサルに対する、ことについて聞けて自分も女子フットサルを盛り上げていけるように SNS を頑張ろうと思います。今日の発表を聞いてたくさんの人が女子フットサルについて考えていて嬉しかったです。でも私はそんなことを全く知らなかったので今日のような情報を自分から調べたり女子フットサルについてもっと知ろうと思います。
- 色々な方が女子フットサルを盛り上げるために取り組んでいてくれたことがわかって、自分たちも盛り上げるために自分たちが応援されるような選手になりたいと思いました。そして、タイ遠征では初めての同年代の海外の選手と戦うので交流したり、日本の選手とは違ったところを見つけたりして、帰ってきてからもそれを生かしてプレーしたいです。
- 女子フットサルを広めるために、SNS などで自分たちのプレーしている所を発信したり、フットサルって楽しいって言うことを発信してもっと女子フットサルの人口を増やしていきたいと思いました。なので、これからは今よりももっと SNS での取り組みを増やしていくようにしたいです。

以上

（文責：中塚義実）